



地震・津波にそなえて



住吉・城東地区自主防災会連合会 会長 濱 泰臣 (泰心商事)

防災気象情報

- 津波予報には
 - ① 高いところで3メートル以上の津波が予想される場合の「大津波警報」
 - ② 高いところで2メートル程度の津波が予想される場合の「津波警報」
 - ③ 高いところで0.5メートル程度の津波が予想される場合の「津波注意報」
- の3種類があります。
- 東海地震に関する情報は危険度が低い順に「観測情報」→「注意情報」→「予知情報」と発表されます。「東海地震情報」がでたら防災関係機関は防災準備行動を開始し必要に応じて児童・生徒の帰宅や旅行・出張の自粛等の対応がとられます。また「警戒宣言」は東海地震が発生するおそれがあると認められた場合に発表されます。「予知情報」を受けて「警戒宣言」が発表されると地震防災対策強化地域では本格的な防災体制にはいります。

災害情報

- 1923年9月1日関東大震災が起きた時、被災者は長時間情報空白の中におかれたため人々は大混乱におちいり、デマや憶測が広がり大きな社会不安を招きました。
- 放送局はNTTなどの「災害用伝言ダイヤル」を通じて個人の安否情報を取り上げることが、これからの災害では有用だと考えられます。
- テレビ放送がデジタル放送にシフトするに伴って、大きな災害時には災害情報をデータ放送で伝えたり、通常はハイビジョンの放送をしている電波を最大3つのチャンネルに分けて地域を限定した災害情報の放送をすることが可能になりました。さらにデジタル放送の電波の一

部を利用して携帯端末向けの放送もできるようになりました。

すだちくんメール

「すだちくんメール」とは徳島県危機管理部が22年5月より実施した災害時の安全確認サービスです。これに登録すると災害の時にご自分の携帯電話がこわれたり紛失した場合でも他の携帯電話やパソコンでパスワードを入力すると「メール」や「安否情報」を確認することができます。

【お問い合わせ先】

徳島県南海地震防災課 TEL 088・621・2281
大地震や津波にそなえて住吉・城東地域の17の自主防災会が連合会を設立しました。地域の皆さんが安全で安心に暮らせるように災害時には顔見知りの人々が助け合いながらお年寄りの所には若い人達が安全の確認にいけるよう防災訓練などで住民同士が助け合うことが出来るという目的で結成されました。事務局は「住吉・城東コミュニティセンター」にあります。

情報の入手と発信について

- 「流言」とは事実の確証なしに伝わる情報であり、根拠のない風説、うわさのことをいいます。人から人へ伝えられるうちに、その情報がだいにゆがめられもとの内容とは全くことになってしまう場合が多いものです。
 - パニックが起きるのは次の4つの条件がほぼ同時に満たされたときと考えられます。
- ① 差し迫った危険が存在するという認識が人々の間にあるとき。
 - ② 脱出の可能性があるとき。
 - ③ 脱出口に制約があり、全員は避難できそうにないとき。
 - ④ 正常なコミュニケーションが欠けているとき。

- パニックを防止するには、パニックが起きるための4つの条件がそろって成り立つことがないように工夫することです。
- 避難口や避難場所がよく分かるように表示など

を整備して脱出の可能性を大きくする努力をすることです。また避難の指示や避難誘導がスムーズにいくように日頃からの訓練や広報活動のコミュニケーションづくりが非常に大切です。

避難場所を知っている？避難経路の確認

避難は徒歩が原則(車は渋滞のもと)。避難場所までの道を、一度、歩いてみましょう。いつもの道も、歩いてみると気がつくことがあります。道に面して立つ自動販売機は、約300kg。倒れてきたらひとたまりもありません。電信柱も危険です。ブロック塀が倒れて道をふさいでいたら？別の道順を考えておく必要もあります。犬の散歩や健康ウォーキングをかねて、避難経路を歩いてみませんか。

避難場所・避難所などをあらわした標識



■ 津波に関する統一標識

■ 津波注意



地震が起きた場合、津波が来襲する危険のある地域を表示。

■ 津波避難場所



津波に対しての安全な避難場所(高台)の情報を表示。

■ 津波避難ビル



津波に対しての安全な避難場所(津波避難ビル)の情報を表示。

避難場所・避難所・
避難経路を
確認してね。
くわしくは、市役所・
町村役場へ。

☑ チェック!

- 避難場所を確認する
(避難場所はお住まいの市町村役場で確認してください)
- 避難経路を歩いてみる
- 避難経路は複数考えておく
- 避難経路の危険箇所を把握する

車で逃げちゃだめだよ